

## 1 研究課題

21年度の共同研究では、中学校における道徳教育推進教師のあり方や役割について、福岡市立中学校の道徳の時間に関する実態調査を行った。その結果、教師も生徒も共に、道徳の時間は心を耕すための時間として認知していることが分かった。一方、生徒が道徳の時間を楽しんでいると思っていると教師が認知する割合と、教師が実際に行う指導法との間には、何らかの関連があることが予想された。例えば、教師が使用する教材の種類や指導法の違いによって、授業を楽しんでいると思ったり思わないなど、生徒の認知上の違いが見られるようである。教育では教師が思ったり感じたりすることと、生徒が実際に思ったり感じることとの間に隔たりがあることも事実である。道徳の時間の指導においても、教師と生徒の道徳に対する認知の違いが予想される。教師が感動資料と思っていたものが、共感的であったり、範例的に受け止められる事例も見られる。昨年の道徳教育推進教師に対する自由記述では、道徳の時間に使用する資料選定が大切であるとか、もっと工夫した資料作りに取り組みたいとの記述があった。そういう意味では、道徳的実践力を培うための大きな要因として、資料に関わる内容が取り上げられている。資料の善し悪しが道徳授業を左右するといっても過言ではないであろう。

そこで日頃の道徳授業で、生徒は資料をどのように認知しているのか、また道徳授業で培われた力が、他教科にどのような影響を及ぼしているのか、さらには道徳授業と学校行事との関連がどのように実践化されているのか等、生徒自身による具体的な認知のあり方を研究する必要性が出てきた。

生徒に対するアンケートの内容項目の作成に関しては、福岡市中学校道徳教育研究会と連携をしながら作成していく。その際、21年度共同研究で使用した道徳教育推進教師に行った調査用紙を生徒用に作成し直すことを検討したい。また共同研究者からアドバイスをいただきながら、道徳授業に対する生徒の認知の実態を明らかにするとともに、学校における道徳教育の推進に役立つ成果を見出し、福岡市立中学校に具体的な提言を行っていきたい。

## 2 調査方法

福岡市内 69校の中学校から小規模校1校（6学級 106名）と大規模校1校（25学級 916名）に調査を依頼した。小規模校（A校）は全6学級を調査対象とし、大規模校（B校）は各学年2学級で6学級（204名）を抽出して調査を行った。

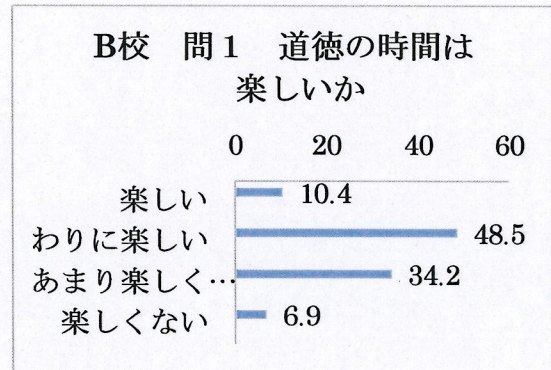
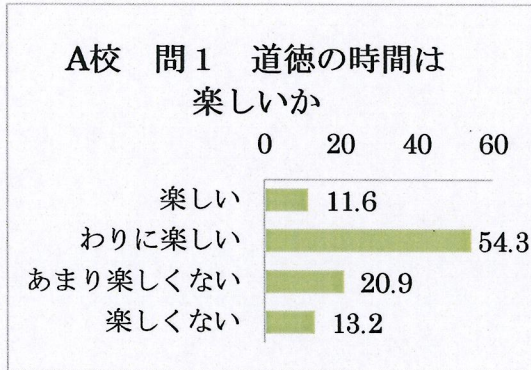
調査については、先ずAとB校の校長に電話をかけて調査依頼をして許可を得た。その後、各学校に調査用紙を持参して、調査の説明と留意点に関して教頭に説明を行った。調査時期は学校の都合を考えて10月～12月の3ヶ月間を設定した。

作成したアンケートの内容項目は、昨年度に行った「道徳教育推進教師に対するアンケ

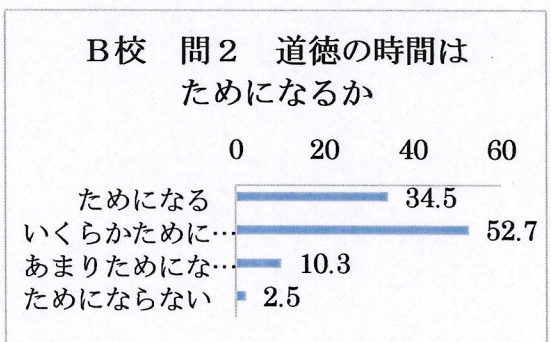
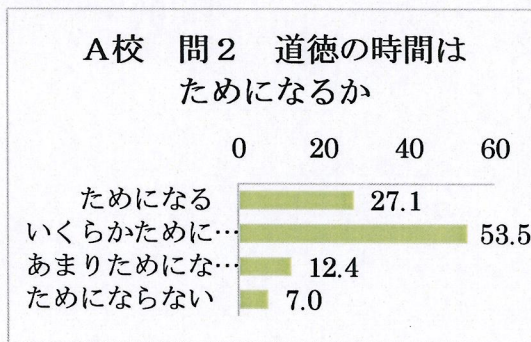


アンケート調査項目」をもとに、その内容を生徒向けに作成しなおした。研究協力者にアンケートの調査内容を見てもらい、修正を行った後、別紙内容のアンケート用紙を完成した。

### 3 調査結果とまとめ

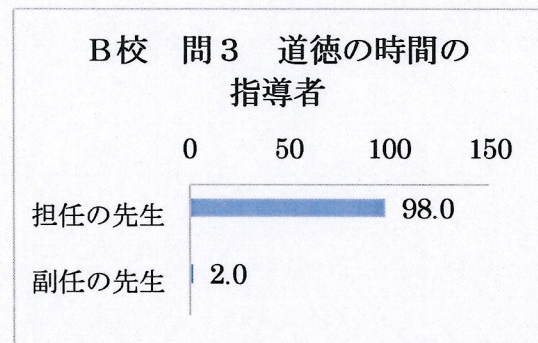
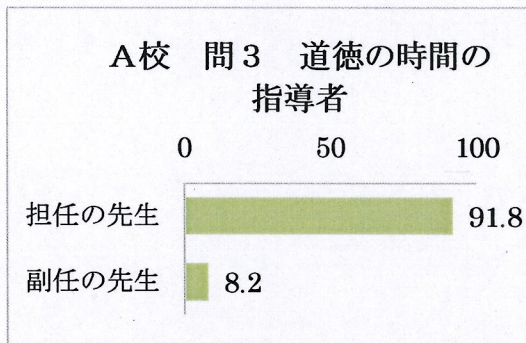


問1「道徳の時間は楽しいですか」を尋ねたところ、「楽しい」と「わりに楽しい」を肯定的反応、「あまり楽しくない」と「楽しくない」を否定的反応とすれば、A校では65.9% B校では58.9%が肯定的反応を示している。道徳の時間を否定的反応をしている生徒は3～4割程度と考えられる。いずれにしても、道徳の時間を肯定的にみている生徒が約6割、否定的にみている生徒が4割であり、生徒の過半数は道徳の時間は楽しいと認知していると言える。

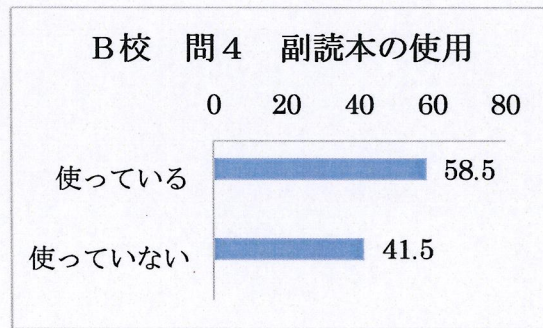
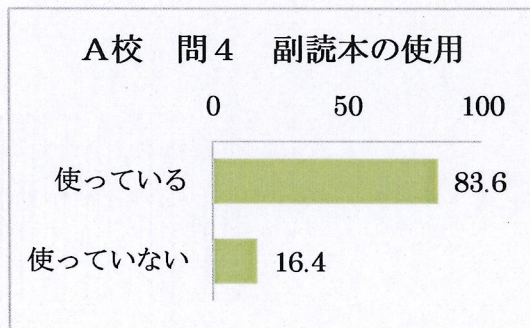


問2「道徳の時間はためになると思いますか」に対しては、道徳の時間を肯定的に受け止めている生徒がA校で80.6%、B校で87.2%と多く、約8割の生徒は、道徳の時間の指導はためになり、有益な時間だと認知している。

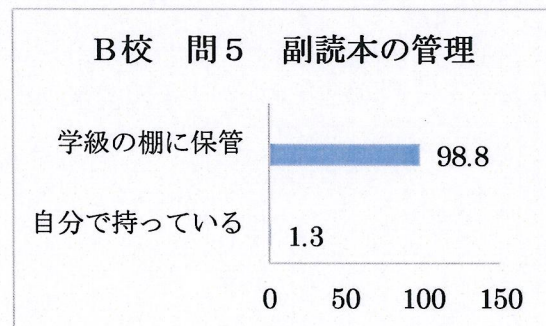
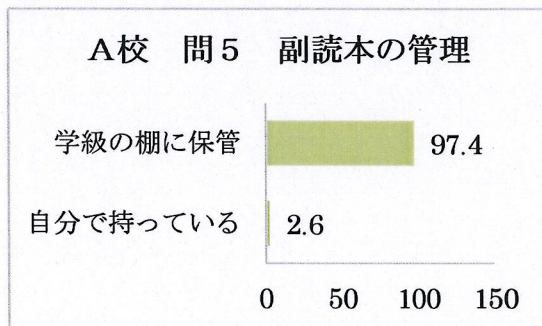




問3「道徳の時間は誰が指導しますか」では、担任の先生(98.0%)、副任の先生(2.0%)であり、道徳の指導は学級担任が指導していることが分かる。道徳教育推進教師の調査では、学級担任が道徳の時間を実際に運営している割合は、15%であり、この時間に対する教員の認知と生徒の認知に大きなずれがあることが分かる。

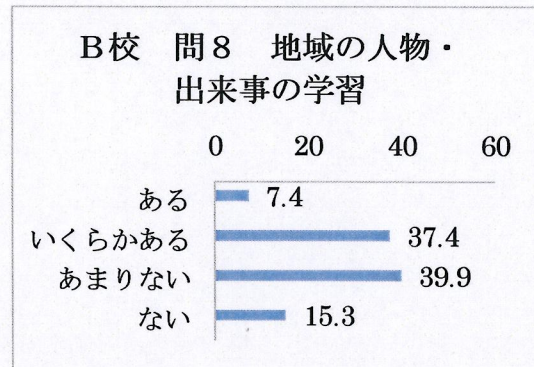
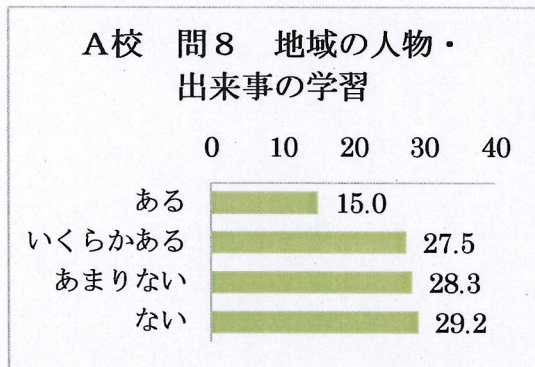


問4「道徳の副読本は道徳の時間に使っていますか」では、A校では使用している割合が83.6%であるのに対し、B校では半数程度が使用しているに過ぎない。学校により副読本の使用頻度が違うことが分かる。

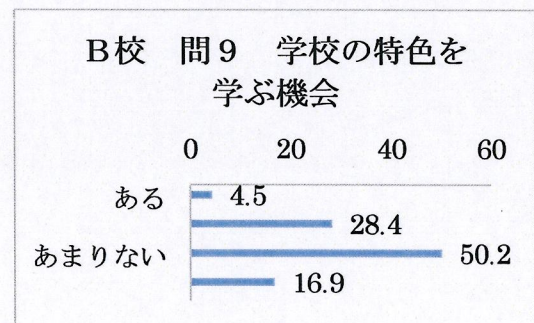
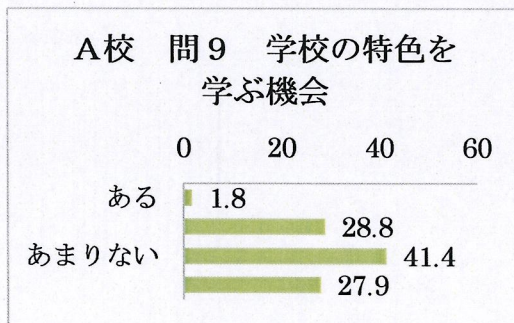


問5では、道徳の副読本を使っている場合の副読本の管理を尋ねたところ、教科書と同じように副読本を自分で持っている生徒は、両校ともわずかであり、副読本は学級備えにして管理していることが分かる。

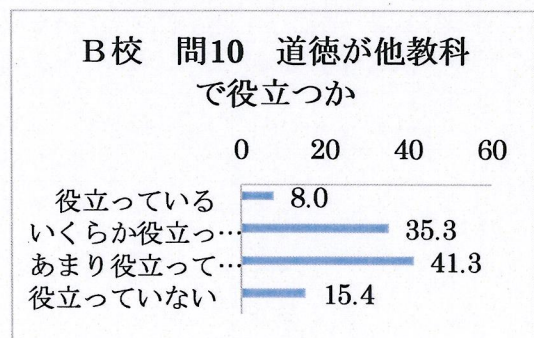
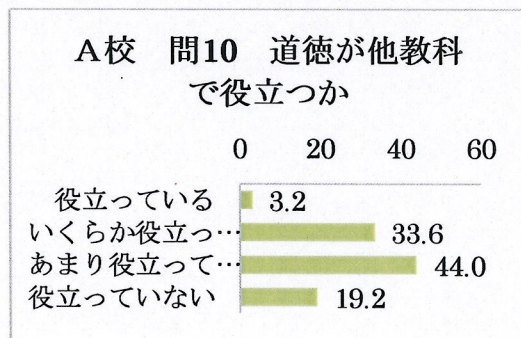




問8「道徳の時間に、地域にゆかりのある人物や地域のお話や出来事について学ぶ機会がありますか」では、肯定的に学んでいると応えたものがA校では42.5%、B校では44.8%、「あまりない」と「ない」を合わせた消極的的回答が半数を超えていた。道徳の時間に地域の人材や出来事を使った授業があまり行われていないように思われる。

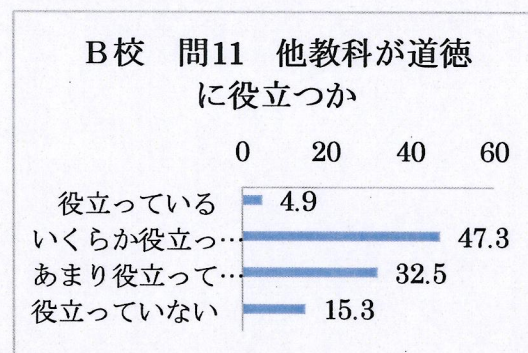
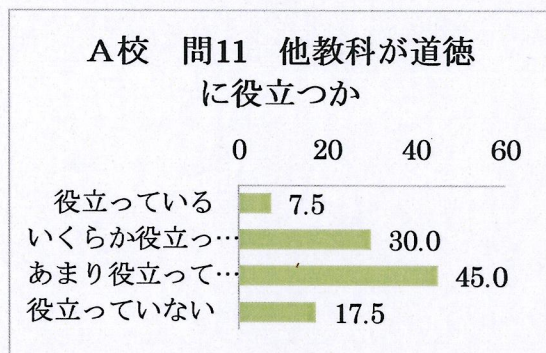


問9「道徳の時間に学校の特徴を学ぶ機会があるか」を尋ねると、あまりそうした機会はないと消極的に応えている生徒が7割近くおり、学校では自校の特徴を教えていることは少ないことがうかがわれる。

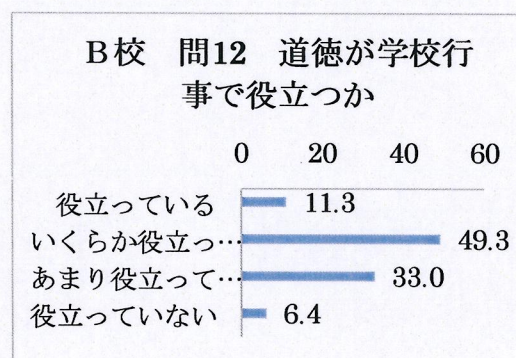
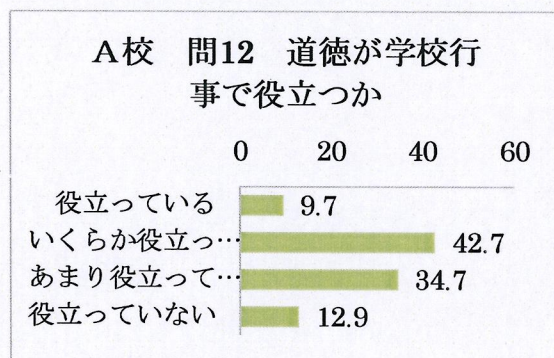


問10「道徳で学習したことが、他教科で役立っているかどうか」を尋ねたところ、A校では、約4割程度、B校では5割程度の生徒が役立っていると応えているが、半数程度上の生徒は、あまり役だっていないと認知している。

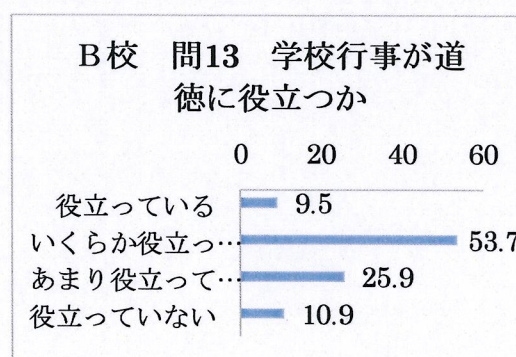
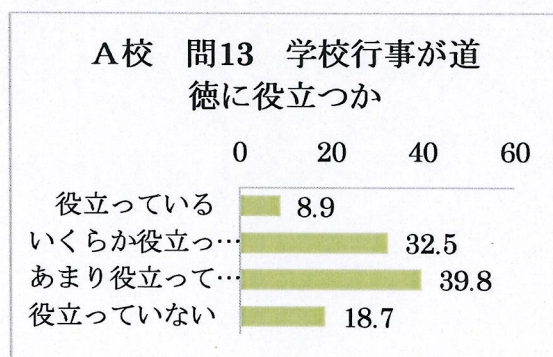




問 11 では、逆に他教科が道徳の学習で役だっているかどうかを尋ねると、役だっていると認知している生徒は半数であった。



問 12 で道徳で学習したことが、学校行事で役だっているかを尋ねると、役だっていると認識する生徒が A 校では 52.7% となっており、B 校では 60.6% であった。半数以上の生徒が道徳の時間が学校行事に役だっていると認知している。



問 13 では、学校行事が道徳の時間の指導に役立つかどうかを尋ねた。A 校では 41.4%、B 校では 63.2% の生徒が役立つと認知していた。